

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第102号 平成25年6月28日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 太田有香
発行責任者 南 圭三郎

目次

農家さん訪問記 (86) 【青森県・りんご】・・・	p.1
住友化学アグログループ紹介 住友化学園芸(株)・・・	p.5
今月の肥料紹介【液肥：温州みかん】・・・	p.6
今月のお奨め農薬【ベンレート水和剤】・・・	p.7
お役立ちプチ情報【害虫の姿その3：稲の害虫】	p.9
農薬登録情報・・・	p.10
ひまわり農園奮闘記 ・・・	p.12
アンケート集計結果・訪問農家さん募集・・・	p.13
編集後記 ・・・	p.15



コルリ（ツグミ科）とライラック（モリ科）
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(86)

東北魂が育てる King of りんご

東北地方でも指折りのりんご産地である青森県平川市広船地区は、津軽富士と呼ばれる岩木山を望み、津軽平野の南西に位置する、りんご生産には最適の気象条件に恵まれた豊かな農村です。JR 弘前駅から車で取材先の農家さんへ向かっていると、辺り一面りんご、りんご、りんごの木がいっぱい！それもそのはず、広船地区は現在りんご農家が全体の約8割を占めているそ



晴れた日の岩木山

うで、まさに「りんごの故郷」なのです。今年は異常気象で開花時期が遅れたため、ほとんどが蕾の状態でしたが、満開になればさぞかしきれいだらうな、という風景が広がっていました。今回はその数あるりんご農家の中でも、農林水産大臣賞を連続受賞しているという青森県では泣く子も黙る（！）共防を訪れました。（共同防除組合：薬剤散布を共同で行う各地域ごとの組織）

「広船共同防除組合」は、近隣の3つの共防が合併し7年前に結成されました。合併前はそれぞれの共防で作業をしていましたが、今では近隣の個人農家も参加し60軒弱の農家が加入する広船地区最大の共防（管理面積はなんと50ha！）となっています。取材に協力して下さったのは、組合長の長尾昭雄さん（51歳）、副組合長の外川智志（さとし）さん（50歳）、業務部長の工藤 健（たける）さん（44歳）の3人です。（訪問日：5月16日）



工藤さん、外川さん、長尾さん

合併による恩恵は大きかった

広船地区では昭和 33 年に定置式共同防除が始まり、沢ごとに小さな防除組合が置かれました。その当時は今の SS（スピードスプレー）のような機械がなく人力に頼っていたため、農薬散布の日には家族総出で取り掛かったそうです。各地に農薬散布用パイプが設置されており、各地域の中央から薬剤散布の号令がスピーカーで流れると一斉にホースで手散布し、終わったら電話で知らせ、それまでの時間で金額を計算するというものでした。散布には個人差がありますが、自分の園地だけで「だいたい半日はかかっていた」そうです。大変なご苦労だったのですね。

35 年前に初期の SS が導入され、散布の手間は飛躍的に改善されましたが、その頃の SS はまだ大きかったので、山手では使えず、全域で使えるようになったのは四駆が登場してからでした。1 台が高価でオペレーターも必要となる SS は、各共防に 1~2 台しかなく、全ての加入農家を回るのに何日もかかっていました。「これでは効率が悪すぎる」と思った長尾さんたちの先代は、広船全体で何度も話し合いを重ね、思いを同じくした長尾さん、外川さん、工藤さんの先代が率いる 3 つの共防を合併させ「広船共同防除組合」を結成しました。「その時はとにかくやってみよう、ぶつかったらその都度考えて話し合えばいい」（外川さん）という、いちかばちかの選択だったそうです。

何せ初の試みですからお手本もなく、防除暦の立て方も共防ごとに違っていたため、1 年目は試行錯誤の連続でした。次々起こる目の前の問題を懸命に一つ一つ解決していくうち、今のようない体制が出来たそうです。今では以前に比べ人件費等の経費を 10% 節減、オペレーターと SS の確保による効率化、各共防ごとに存在する役員の二重登録（ダブリ）の解消など、様々なメリットが生まれました（ちなみに長尾さん、外川さん、工藤さんも以前 2、3 組合の役員を兼任して

車庫にはなんと、SS が 5 台も！
(合計 6 台お持ちだそうです！)

沢から引いた貯水槽から給水



山場での散布の様子

いました)。現在 JA やりんご協会などで情報交換（勉強会）が行われており、広船地区の各共防からも出席しているようですが「広船共同防除組合のような合併は先進的な試みだったため、うちに続く共防がまだいないのが残念」（長尾さん）とのことでした。

青森でりんご栽培が盛んな4つの理由

現在広船地区では、りんごと水稲がそれぞれ8:2の割合で栽培されているそうです。昭和50年代の国からの補助事業により水稲農家がりんごを栽培し始め、山場のりんご農家が徐々に平地へ移ったことにより、収量は以前の倍近くになりました。平地の大部分は矮化栽培（わいかさいばい：わざと木の高さを低く栽培）となり、そのことも収量増加につながっています。

青森でりんご栽培が盛んな理由は4つあるそうです。窓口としての「農協」、流れを整える「仲買人」、遠隔地の消費者への配達を可能にした「宅配」、確実な消費を支える「産地市場」。これらはりんごの生産から流通、消費までの円滑な流れに必須で、「これが1つでも欠けていたらうまくいかなかったと思う」と外川さんは話されます。ただ、それでも問題は山積み。長尾さんたち広船地区のりんご農家は、青森でも比較的年齢の若い方が多いのですが、それでも若手がいなのが悩みだそうで「30代まではいるが、20代の若手で農業をやる者がいない」とのことです。親の跡を継いで農家になる若者はまだしも、最大の問題はやはり新規就農の若者がいないこと。「県外からでも構わないので、新規就農者を募集しています！」と皆さん声を揃えておられました。現在、広船地区でりんごを栽培している農家は220軒ほどいますが、長尾さんたちのような中堅農家はまだ20~30軒くらいで、栽培技術の継承も今後の課題だそうです。

3年連続『農林水産大臣賞』受賞！

肥沃な土と、昼夜の気温差、名水に指定される天然水など、りんご栽培に最も適した環境である広船地区のりんごは、これまでに度々農林水産大臣賞を受賞しています。農林水産大臣賞には2部門あり、果実と立木（3箇所）の両方でそれぞれ審査されます。立木の審査は、姿や形、いくつ実が成ったかなど総合的なものですが、立木が良いからと言って成ったりんごも良いとは限らないのが難しいところなのだとか。5人1チームの団体戦で、全員が合格しなければ賞は獲れないそうで、採点は減点方式です。「(下草など)畑に入った瞬間から審査が始まる」と、ちょっと緊張気味に話す長尾さん。しかし技術よりもまず、受賞できた理由は「やはり自分たちのりんごへの熱い思いが一番大きい」と力強く話してくださいました。手塩にかけたりんごたちが高い評価を受けると、うれしさと同時に



「ホッとした気持ちになる」のだとか。まさにオリンピックの度にメダルを期待されるアスリートの心境ですね。地区の集会所の近くに立てられた「農林水産大臣賞受賞の軌跡」という大きな看板には、これまでの受賞経緯が紹介されていますが、あえて平成25年以降の空白を設けることで自分たちへのプレッシャーにしているのだそうです。

りんご作りは人作り

最後にこれからの広船についてお聞きしました。「肥料、薬剤を統一し、生産から販売まで一貫したルートを作りたい」と話すのは外川さん。「りんご作りは人作りから。1人では地域の産業として成り立たない。人が集まって初めて良いものが出来る産業になる。心配事があったら集まって飲め。飲めば1晩で1つ覚える。2つ覚えようと欲張るなよ。1晩で1つ、しっかり覚えていくんだ」。良い言葉ですね、と感想を伝えると「先輩たちからずっと語り継がれてきたことだ」と笑って返されました。教えていく、学んでいく環境が、良いりんごを作っていく。りんご作りに限らず、全ての事柄にあてはまる言葉だと思いました。そういった心意気が、賞を授かるほど素晴らしいりんごを作る礎になっているのだと感ずるお話でした。りんご栽培に興味のある方は、一度訪問されてみてはいかがでしょうか。ただし、肝臓はしっかり鍛えておいてください(笑)。

今回の取材は「JA津軽みらい」様のご協力により実現しました。ありがとうございました。

(太田、山脇)



りんごの花。満開までもうすぐ

りんごの主要害虫防除に！



訪問農家さん募集！
詳しくはこちら クリック



[目次へ戻る](#)

住化アグログループご紹介



殺虫剤

ケムシ退治に ベニカ®Jスプレー

★ 農林水産登録第 23130 号 クロチアニジン・フェンプロパトリン液剤

〔有効成分〕クロチアニジン…0.0080%、フェンプロパトリン…0.010% 〔性状〕無色透明液体

こんなケムシが発生していませんか？



チャドクガ（つばき）



アメリカシロヒトリ（さくら）



1000ml入

- 直噴散布でケムシ、イラガなど高い所にいる害虫や近寄りたくない害虫を、ジェット切替えノズルで遠くからねらい撃ちできます。
- ケムシには速効性と1週間の持続性（チャドクガ、アメリカシロヒトリ・若令幼虫）があり、散布後に発生した害虫も退治します。
- 浸透移行性により葉の中や散布液がかかりにくい場所に生息している害虫にも効果的です。

作物名	適用害虫名
おおむらさき	ケムシ類、ツツジグンバイ
さるすべり	ケムシ類、サルスベリフクロカイガラムシ
かなめもち	ケムシ類、イラガ類
樹木類（おおむらさき、さるすべり、かなめもちを除く）	ケムシ類
ガーベラ	アブラムシ類、コナジラミ類
カトレア	アブラムシ類
ばら	アブラムシ類、ハダニ類、チュウレンジハバチ
きく	アブラムシ類、ハモグリバエ類
花き類・観葉植物（ばら、きく、ガーベラ、カトレアを除く）	アブラムシ類

●希釈倍数：原液 ●使用時期：一 ●使用方法：散布 ※総使用回数については商品の説明をご覧ください。

使用に際しては必ず商品の説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

（ベニカは登録商標）

ベニカJスプレーのお問い合わせはこちらまで・
住友化学園芸株式会社 電話：03-3551-1128
<http://www.sc-engei.co.jp/>

[目次へ戻る](#)

今月の肥料紹介 液肥を使って 温州みかんの安定栽培を目指そう

温州みかんは、隔年結果性が強く、収量が不安定な要因の一つとなっています。一年を通して樹の栄養改善を行い、安定栽培を目指すための液肥の施用例について紹介します。



発芽前(2月~3月)の散布で着花・果数の増加、

収穫一ヶ月前の散布で品質向上を目指そう

リン酸系液肥の葉面散布により、発芽前散布では着花・果数の増加、収穫一ヶ月前散布では果実糖度が向上した事例があります。

おすすめの液肥 リン酸とカリの濃度を高めた液肥 **PK液肥120**

開花期から果実肥大期(5~7月)の散布で

結実率・果実肥大の向上を目指そう

三要素をバランスよく含んだ液肥の葉面散布により、結実率及び果実肥大が促進された事例があります。

おすすめの液肥 チッソ、リン酸、カリをバランスよく配合した液肥 **液肥1号**

収穫後の散布で翌年に向けた樹勢回復を目指そう

チッソ系液肥の葉面散布により、葉中チッソ含量が速やかに増加した事例があります。

おすすめの液肥 チッソ含量を20%と高くしたL型液肥。 **ハイチッソ液肥**

< 温州みかん 栽培暦と液肥使用例 >

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な作業		整枝・剪定		摘蕾・摘花	粗摘果		仕上げ摘果		樹上摘果			
		土壌改良	春肥		夏肥						秋肥	
液肥使用例		着花数増加 発芽前 PK液肥120 400~500倍 7~10日間隔 2~3回散布			結実率向上 開花期 住友液肥1号 200~400倍 10~14日間隔 5~6回散布			果実糖度向上 収穫前 PK液肥120 400~500倍 7~10日間隔 2~3回散布			樹体栄養改善 収穫後 ハイチッソ液肥022 400~500倍 7~10日間隔 2~3回散布	

お問い合わせは 住友化学(株) アグロ事業部 肥料営業部まで 電話 03-5543-5783

[目次へ戻る](#)

今月のお奨め農薬

りんごの褐斑病、腐らん病の7月防除に

ベンレート水和剤

りんごの栽培で問題となる病害は黒星病、斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病、腐らん病、モニリア病、すす点病、すす斑病などです。

ベンレート水和剤は7月の褐斑病、腐らん病防除にお奨めの薬剤です。

【りんごの褐斑病について】

りんごの褐斑病は古くからの問題病害ですが、ボルドー液散布の普及で一時は発生が減り、実害のないマイナー病害と考えられていました。最近のボルドー液を散布しない防除体系への移行にともない、褐斑病は再び問題病害となっています。褐斑病は80種以上の作物で発生しますが、病原菌は作物によって異なります。りんごの褐斑病の病原菌は *Diplocarpon mali* です。

りんごの褐斑病は主に葉に発生しますが、時に果実でも発病が見られます。葉の病斑は、はじめ紫褐色の小さな斑点を生じ、次第に拡大・融合して不整形の大型病斑となります。病斑内部には黒色、虫糞状の分生子層が形成されます。病葉は黄変し、落葉します。激発樹では樹冠全体に落葉が拡がり、果実の肥大、着色が著しく劣ります。果実では主に枝に近い部分から肩の部分に発病します。

りんごの褐斑病は被害落葉上で菌糸の状態で越冬し、翌春、落葉上に子のう盤を形成し、内部に子のう胞子が作られます。この子のう胞子が5月上旬～6月中旬に降雨によって飛散し、葉に第1次感染を起こします。被害葉上にできる分生子層に形成される分生胞子が第2次感染源になります。7～9月の多雨で伝染が活発になります。

りんごの褐斑病防除は第1次感染期（落花期～6月下旬）の予防型殺菌剤の散布（3回散布）が効果的です。褐斑病の多発が予想される場合および前年に多発した園では第2次感染期の7月中旬頃に本病に効果の高いベンレート水和剤等を基幹薬剤に加用して散布するのが効果的です。ベンレート水和剤は褐斑病に対して予防効果だけでなく、感染後発病前までの潜伏期間にも優れた効果（いわゆる治療効果）を発揮します。

りんごの褐斑病の耕種的防除法としては①伝染源となる被害落葉をかき集めて焼却し、圃場の菌密度を低下させる、②適正な樹体管理を行い、風通しを良くし、また薬剤が十分かかるようにするなどがあります。



りんご褐斑病（葉：初期）



りんご褐斑病（葉）



りんご褐斑病（果実）

【りんごの腐らん病について】

りんごの腐らん病は子のう胞子がりんごの樹皮組織に感染して樹皮を腐敗させる病気です。1～5年生の枝梢に発生する枝腐らんと主幹や大枝に発生する胴ふらんがあります。腐らん病の病原菌は *Valsa ceratosperma* です。



枝腐らん

胴ふらは粗皮形成最盛期（7月中・下旬頃）に粗皮形成に伴う樹皮亀裂部に病原菌が侵入して感染します。感染部は10～12月頃に褐色、火膨れ状の初期病斑を生じ、翌春には典型的な胴腐らんになります。

りんごの腐らん病の薬剤防除法として、休眠期（3月末頃）・秋冬期の樹体感染総合防除、6月中旬～7月上旬の摘果痕感染防止、7月中旬頃の粗皮感染防止、2～4月頃の剪定切り口および通年の病斑削り後の感染防止があります。ベンレート水和剤は、りんごの腐らん病に対して極めてすぐれた感染阻止効果があり、上記の、 、および の防除法で使用できます。 の防除法には塗布剤（トップジンMペーストなど）を使用します。

ベンレート水和剤を褐斑病防除で7月中旬、または7月末に散布すると、腐らん病の粗皮感染も同時に防除できます。

りんごの腐らん病の耕種的防除法としては 2～3月頃に粗皮削りを行い、早期発見を心掛ける、病患部を見つけ次第、病患部を削り取り、削り取った後に塗布剤を処理する、病患部に3～5cm程度の厚さで団子状にこねた土壌を貼り付けるなどがあります。

【ベンレート水和剤について】

ベンレート水和剤は幅広い病害にすぐれた防除効果があります。ただし、軟腐病などの細菌病、べと病、疫病などの藻菌類、キノコなど一部の担子菌には効果がありません。ベンレート水和剤は予防効果と治療効果をもつ殺菌剤で、植物体への高い浸透力があり、また耐雨性にすぐれます。病原菌の感染前に散布すると、胞子の発芽管の伸長を阻害し、組織への侵入を防ぎます。病原菌の感染後に散布すると、ベンレート水和剤は植物組織に浸透し、菌糸の伸長を阻害します。

(鳥取)



ベンレート水和剤 100g は袋の底が開くようになっています。袋の裏面に記載されていない登録内容は、こちらに記載されています。



レートーベンがしっかりガード

[目次へ戻る](#)

お役立ちプチ情報

シリーズ「害虫の姿」(その3: 稲の害虫)

・イネツトムシ

セセリチョウ科：イチモンジセセリの幼虫。成虫は全体に茶褐色の小型のチョウで5月から6月にかけて稲に飛来し、1mm程の卵を産卵する。孵化後の幼虫はイネの葉を食害し、成長した幼虫は約40mmになる。8月中旬ごろ、幼虫は増加し、稲の葉を数枚まとめて綴り、苞(つと)をつくる。このため、イチモンジセセリの幼虫であるが、イネツトムシと呼ばれる。



・コブノメイガ

メイガ科：ウンカ類と同様に九州以北では越冬できず、毎年中国南部以南から風に乗って日本に飛来する。飛来後、水田の稲に産卵し、世代をかさねて増加する。幼虫(写真)は稲の葉を左右から縦に折曲げて筒状に綴り、その中で葉を食害する。食害された葉は表皮だけとなるので、白くなる。被害は出穂期ごろに多くなり、水田が一面白くなる場合もある。



・ニカメイチュウ

メイガ科：ニカメイガの幼虫。成虫は灰黄色で、翅を畳むとほっそりとした小型のガである。北日本では年1回発生し、他の地域では年2回発生する。暖地では3回発生する地域もある。幼虫は稲の葉鞘や茎の芯に食入し、大きな被害となる。1963年以降発生は減少していたが、コンバインによる高刈株の増加で越冬場所が確保できるようになり、発生が増加している。



・フタオビコヤガ

ヤガ科：成虫は全体に深黄色で小型のガ。稲藁の中で蛹で越冬し、4月下旬頃成虫になり、稲の葉に産卵する。幼虫(写真)は緑色をしており、イネアオムシとも呼ばれ、特徴的なシャクトリ状の歩き方をする。1~2歳の幼虫は葉の表皮を残して食害するが、3歳以上の幼虫は葉縁から切り取ったように齧り、葉は中肋(中央の筋)のみとなる。



(山脇)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

5月29日の主な適用拡大の内容です

詳細はここをクリックしてください。

<http://www.i-nouryoku.com/prod/tekiyou/2013.html>

○殺虫剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後	
ベストガード水溶剤 (2013/5/29)	作物追加	—	—	モロヘイヤ追加	
		—	—	アスパラガス追加	
		—	—	ねぎ追加	
ベストガード粒剤 (2013/5/29)	使用方法追加	ねぎ	(ネギアザミウマ) 植溝処理土壌混和	(ネギアザミウマ) ・植溝処理土壌混和 ・セル成型育苗トレイ またはペーパーポットの上から散布	
	使用時期変更		(ネギハモグリバエ) 株元処理の使用時期 は収穫7日前まで	(ネギハモグリバエ) 株元処理の使用時期 は 収穫前日まで	
	使用回数変更		(ネギハモグリバエ) 株元処理の使用回数 は2回以内	(ネギハモグリバエ) 株元処理の使用回数 は 3回以内	
	ニテンピラムを 含む農薬の 総使用回数変更		3回以内(育苗培土 混和及び定植時の 土壌混和は合計1 回以内、株元処理 は2回以内)	4回以内 (定植時ま での処理は1回以 内、株元処理及び 水溶剤の散布は合 計 3回以内)	
	使用時期 及び 使用方法追加		花き類・観葉植物 (きく、きんせんか、クリサンセマム、ペチュニア、パンジーを除く)	発生初期 生育期株元散布	発生初期 生育期株元散布 定植前 培土混和
	作物名変更		花き類・観葉植物 (きく、きんせんか、 クリサンセマム、ペ チュニア、パンジー を除く)	花き類・観葉植物 (きく、きんせんか、 クリサンセマム、ペ チュニア、パンジー を除く)	クリサンセマム、ペ チュニア、パンジー と統合し、 花き類・観 葉植物(きく、きんせ んかを除く) に変更
	作物削除		クリサンセマム、ペ チュニア、パンジー	クリサンセマム、ペ チュニア、パンジー	削除 (花き類・観葉植 物に統合)

○除草剤

薬剤と変更日時	変更項目	適用作物	変更前	変更後
スミクレート粒剤 (2013/5/29)	使用時期変更	移植水稻	移植後3~8日(ノビエ1.5葉期まで)	移植後3日~ノビエ1.5葉期 但し、移植後30日まで
	適用土壌追加		近畿以西の早期栽培地帯(但し九州を除く) 壤土~埴土	近畿以西の早期栽培地帯(但し九州を除く) 砂壤土~埴土
	減水深削除		各適用土壌に減水深の記載あり	各適用土壌の減水深の記載削除
兆フロアブル (2013/5/29)	作物追加	—	—	直播水稻追加
兆1キロ粒剤 (2013/5/29)	作物追加	—	—	直播水稻追加

(山脇)

[目次へ戻る](#)

ひまわり農園奮闘記

東京周辺も空梅雨で乾燥した日が続いていますが、農園の野菜は順調に育っています。

6月1日は定期講習会と最初の交流会（年2回）がありました。講習会はこの時期行う作業について、園主さんから以下の説明がありました。

きゅうり（写真-1）は脇芽から小蔓が出ますが、小蔓の1節目の葉と花を残して摘心します。きゅうりが曲がる理由は乾燥や肥料不足です。水をかけ過ぎると節間が伸び過ぎて、その分収量が減ります。**トマト**のわき芽は全て取ります。トマトは出来るだけ灌水を控えてください。原産地が南米の乾燥地帯ということで、水を遣り過ぎると味が落ちます。トマトーンは気温が上がってきたので不要です。**なす**は木の成長を促すために一番果は早めに収穫してください。3本仕立ての下のわき芽は全て摘み取ります。**ピーマン**も同様です。なすやピーマンは支柱で枠（写真-2）を作ると枝をその都度固定しなくてよくなります。今後、きゅうり・トマトなどの果菜類は2週間に一度化成肥料（8-8-8）を追肥してください。

さやいんげんは花が咲いている時期に追肥します。花が咲く前に施すと花が飛び収量が落ちます。また、根が切れるので、畦間に追肥する場合は深く耕さないでください。

ばれいしょは葉が黄色くなってくると試し掘りします。株元に土寄せしていないと、いもが露出して陽が当たり、表面が緑色になります。緑のところは毒性があります。

とうもろこし（写真-3）はマルチを剥がして、畝の外側に追肥します。マルチを剥がすと雨が直接土壌に入り根が大きく張り急激に成長します。アワノメイガの幼虫が雄花に入るので殺虫剤を雄花に一振りします。**だいこん**は2回目の収穫時期です。**えだまめ**は追肥しなくても十分育ちます。毎年、肥料を入れているため窒素分が過剰となり、実が付かず草丈ばかり大きくなります。

交流会（写真-4）は講習会の後に開かれました。ひまわり農園の参加者とお酒を飲みながら楽しく談笑したり、役員さんが調理した野菜たっぷりのけんちん汁をおいしく頂きました。偶然、同席になったご夫婦は近くの住民と分かり、親しく話が出来ました。また、私たち新人は全員自己紹介の機会があり、農園の先輩達に少し顔を覚えて頂きました。イベントもあり栽培に関するクイズが出題され、全問正解者には素敵な農作業グッズのプレゼントがありました。私たちは全問正解とはならず残念でした。

一口メモ：トマトの仕立て方ですが、大玉品種は1本仕立てにしますが、ミニトマトは2本仕立てにします。私はどちらも1本仕立てにしてしまい、早くも失敗しました。＜次号に続く＞（古津）



写真-1



写真-2



写真-3



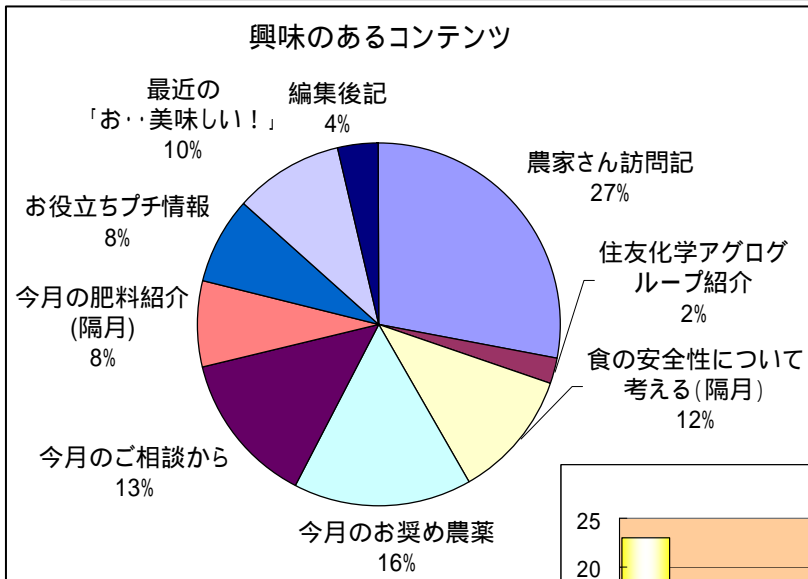
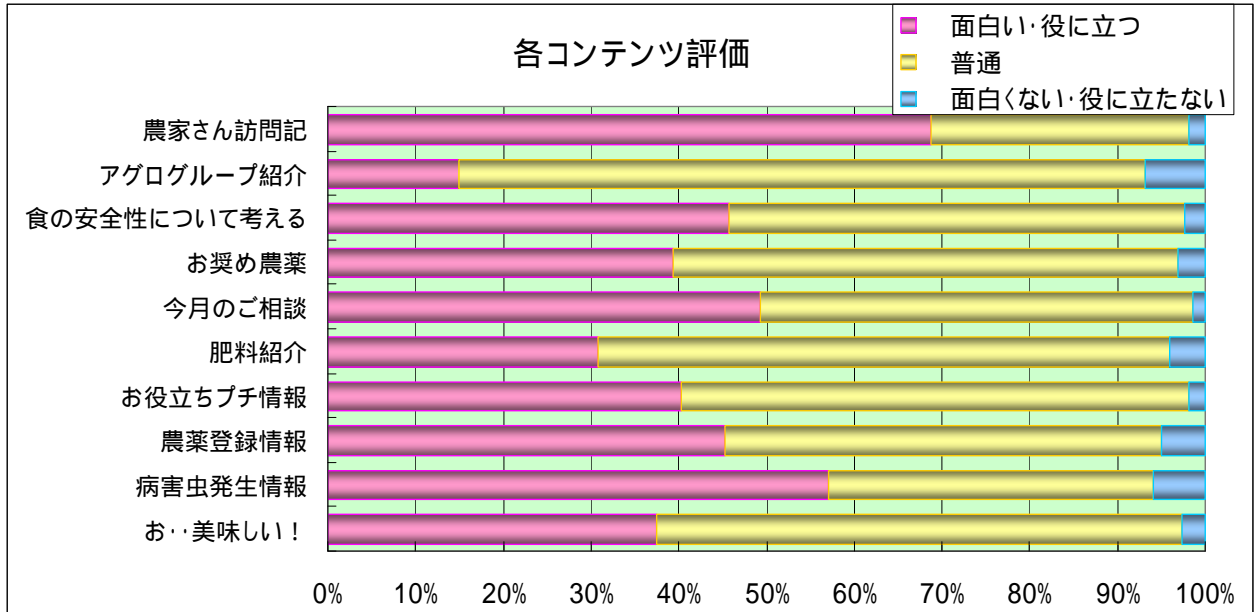
写真-4

[目次へ戻る](#)

アンケート集計結果

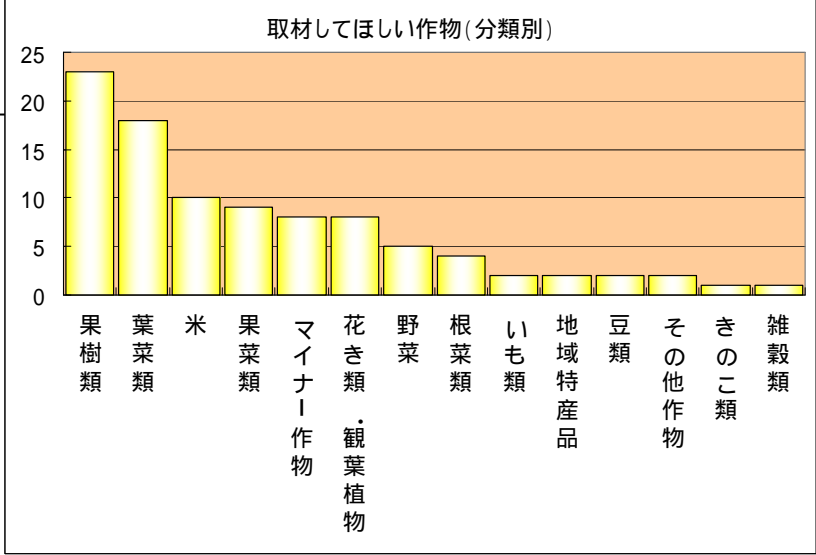


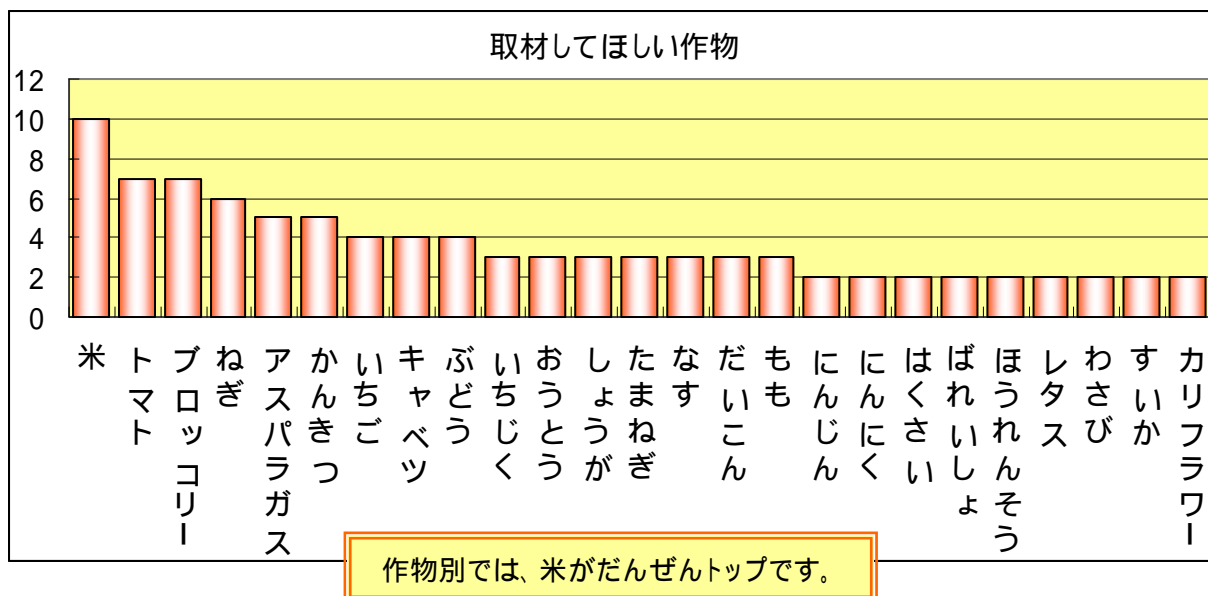
今年初めに行いました「i-農力アンケート」に寄せられたご意見をまとめました。221名もの方にご応募いただきました。ありがとうございました。



「農家さん訪問記」の人气がダントツです。皆さん、楽しみにしてくださっているようで、励みになります。

「農家さん訪問記」で取材してほしい作物についてまとめました。





皆さんの貴重なご意見を、今後の誌面に活かしていきます。

そこで、一番人気の「農家さん訪問記」について、皆さんにもご参加いただきたいと思います。



取材にご協力いただける農家さんを募集します！

必要事項を明記のうえ、当編集室までご連絡ください。

i-農力会員の農家さん(他薦の場合は、推薦者が会員)であれば結構です。

たくさんのご応募、お待ちしております！！

取材時期

10月以降

必要事項

住所、氏名、年齢、電話番号、会員番号、栽培作物、栽培年数、規模、特徴(自慢や工夫している点、ユニークな取り組み方など)

応募方法

i-農力サイトよりメールでお客室相談室までお送りください。

応募締切

7月31日(水)

選考方法および結果

ご応募いただいた内容をもとに、編集室で選考を行い、**8月中**を目処に当落に関わらず応募いただいた皆様にご連絡いたします。

- ・一次選考(書類選考)
- ・二次選考(電話による口答質問)

お問い合わせなど、
詳しくはi-農力サイトを
ご覧ください。

[目次へ戻る](#)

～ 編集後記 ～



今回の農家さん訪問では東京から新幹線で新青森に移動する間、憂鬱になっていました。3日程前から歯茎が腫れ、前日に歯医者に行ったのですが、調子が悪く、頬を撫ぜ続けていました。

青森に近づくと、雲が垂れ、農家さんにりんご園やSSの実演を見せていただいた時も肌寒く、期待していた満開のりんご園の写真も撮れませんでした。今年は皆さんご存知のように記録的な積雪に加えて、寒気が長引き、例年は桜と同時に満開になるりんごの開花が遅れ、農家さんも今後のりんごの生育を心配していました。取材を終え、いつもお世話になっている弘前市の方を訪ねたところ、居酒屋に誘われました。この居酒屋は山菜が得意のお店で何種類もの山菜料理を頂きました。特に驚いたのは薺(あざみ)の茎の御浸し、ウバミソウの煮付けです。珍しい山菜料理に思わず歯の痛いことも忘れ、地元の銘酒に酔ってしまいました。翌日は前日とうって変わって素晴らしい晴天です。早朝4時ごろホテルの窓から見た岩木山は紅く染まり、その姿の美しさに深い感銘を受けました(写真)。午後から青森市内の水田の調査があり、道すがら五所川原市の倭武多(ねぶた)の館に立ち寄り、再建された三体の倭武多を見学し、20mを超える巨大な立倭



武多(たちねぶた)に思わず「ウオー」と喚声を上げてしまいました。「十三(とさ)の砂山米ならよかる」と唄われた、五所川原市近くにある十三湖には立ち寄れませんでした。秀麗な岩木山、よく管理され整然と続くりんご園、迫力の立倭武多に青森の素晴らしい風土を感じながら、新幹線の乗客となりました。

(山脇)

待ちに待った農家さん訪問記デビューを果たしました！しかも初青森、初東北です！出身が九州の私にとって、見るもの全てが新鮮で興味深い取材旅行となりました。東北新幹線「はやぶさ」に乗ったのも初めてです。女子トイレがデパート並みに広くてきれいでした。特急の座席も、車窓から見える戸建も、いろいろな発見がありました。

今年は異常気象でりんごの開花が遅れたため、今頃取材先の共防さんはてんてこ舞いだと思います。初取材だったので、一緒に行った同僚について行くので精一杯でしたが、取材先の方々に大変親切にしてください、いろいろ勉強させていただきました。

青森に行ったらまぐろが食べたい！と意気込んで行きましたが、行ってみたら他にもおいしいものがいっぱい、ダイエット中なのも忘れて食べまくってしまいました(汗)。何より一番おいしかったのは水です。これが全ての食べ物の根源にあるのだと思うと、自然の恩恵に改めて感謝しました。またぜひ訪れたいです！！

(太田)

次月号の - 農力だよりは
7月31日(水)の発行予定です。
どうぞお楽しみに！！

[目次へ戻る](#)



山菜料理の数々。全部違う味付けで、完食でした